

# 県下医療機関・臨床研修病院紹介

## 済生会熊本病院における 卒後臨床研修について

済生会熊本病院 副院長

教育・研究部長 西

徹

二〇〇四年四月から必修化された新医師臨床研修制度も、二〇一〇年の見直しを経て、本年度で十一年目を迎えています。済生会熊本病院では、当初からこの制度に参加し、昨年度までに九期四六名が無事に研修を修了し、それぞれの道に進んでいます。本年度も五名の優秀な初期研修医が加わり、二年目の五名と一緒に、明るく元気に研修を続けています。さら

らに、他施設からの短期・長期のタスキ掛けプログラムに属する研修医も併せると、今年度は総勢二八名の若き医療者が当院で研鑽を積まれています。組織の中に若く情熱溢れる人材が存在することは、大変に素晴らしいことで、指導する側もエネルギーを費いながら一緒に成長すべく、頑張っているところです。

当院での初期研修プログラムが目指すものは、この初期研修制度の理念を基本に考えています。それは、  
1) 医師としての人格の涵養、  
2) 将来の専門分野に関わらない研修内容、  
3) 医学・医療の社会的役割・

公共性の認識、4) Common diseaseに適切に対応できる基本的な診療能力の獲得、の四点であります。二年間で厚生労働省が求める「到達目標」を完全に達成することは勿論のこと、研修終了後は救急病院での当直でさえ自信を持ってこなせる primary care の能力を習得することです。従って、二〇一〇年度の必修科目数の見直し後も、それ以前の必修科目のままでプログラムを組んでいます。そのため、当院での研修終了者の全員が到達目標をほぼ一〇〇%達成しています。

初期臨床研修を有効に実施し、成果を挙げるためには、幾つかの要素が必要と考えられます。まずは、情熱溢れる研修医の皆さんです。この点については、毎年本当に沢山の優秀な学生さん達がマッチングを希望して下さり、上記、当院の初期研修目標に賛同される研修医がマッチされます。残念ながら定員が六名と極端に少ない状態であったため、多くの県内・県外からの希望者の期待に応えられない状態が続いていました。来年度からは一名の定員になりましたので、楽しみにしているところです。

次に重要なのは、指導医の質と数

と考えられます。当院は、制度の開始直後から指導体制充実の重要性を自覚し、積極的に指導医講習への参加を推奨して、現在では有資格の臨床研修指導医は七〇名を超えています。それぞれの指導医が各研修医と濃密な関係を保ちながら、熱心に指導を担当しています。更には、研修のための診療機会という観点でも、九千台を超える救急受け入れ数、da Vinci や TAVI などの最先端医療の実施、最先端診断機器の充実と日夜を分かたぬ稼働状況など、十分なものがあると考えております。

最後に、研修のサポート体制も大変重要だと考え、充実を図っております。本年度より、教育を担当する部署を、「教育・研究部」に格上げする組織改編を行い、安心して研修を継続可能とする仕組みを作り上げております。

今後の課題としては、研修の成果を定量的に評価することが必要であると考えています。これは、日本全体に必要なことだと思われま

す。我々がいわゆるストレート研修を開始した頃と比較すると、現在の研修医は手厚く保護されており、労働環境も随分改善されています。研修プログラムも洗練されたものとなり、

指導する側も指導者研修などを通じて共に勉強するための姿勢を身につけてつつあります。一方で、研修医側が研修病院に求めるものも多様化しており、様々な考えが存在するの事も事実です。しかし、多くの学生が熱い思いで自分の研修の事を真剣に考えています。最近では四年生が研修病院の見学に来るようになっていきます。若い医師と接していると、やはり次世代を担う彼らがあると、その社会、たとえ感されます。我々は、彼らの熱い思いに少しでも応えられようように、

熱い思いで人的物的に充実した研修環境を整えていきたいと思っております。

